

■東京 2 歳優駿牝馬 (SI) アラカルト (過去全 45 回の分析)

※第 1 回 (昭和 52 年) から第 24 回 (平成 12 年) までは「東京 3 歳優駿牝馬」の名称で実施

※第 25 回 (平成 13 年)、第 26 回 (平成 14 年) は 1,590m で実施

※第 34 回 (平成 22 年) からは地方競馬全国交流競走として実施

※記録は令和 4 年 12 月 17 日時点

■ 1 番人気馬と 2~3 番人気馬の好走率に差がある

単勝 1 番人気馬は 20 勝、2 着 6 回、3 着 5 回で、3 着内率が 68.9%、単勝 2 番人気馬は 10 勝、2 着 7 回、3 着 2 回で、3 着内率が 42.2%、単勝 3 番人気馬は 3 勝、2 着 5 回、3 着 7 回で、3 着内率が 33.3%となっている。単勝 1 番人気馬の成績は優秀だが、単勝 2~3 番人気馬の好走率はそれほど高くないレースだ。

■ 3 番人気以内の馬が 1~2 着を占めた例は 12 回

過去 45 回のうち 33 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 12 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 3 回ある。

■ 外国産馬は 1 勝どまり

外国産馬の優勝例は、現在のところ第 29 回 (平成 17 年) のダガーズアラベスクのみである。

■ 他地区所属馬の勝利も 1 例だけ

所属別の勝利数を見ると、浦和が 2 勝、船橋が 12 勝、大井が 18 勝、川崎が 12 勝、愛知が 1 勝となっている。第 34 回 (平成 22 年) からは地方競馬全国交流競走として実施されているが、南関東地区以外の所属馬による優勝例は、現在のところ第 40 回 (平成 28 年) のピンクドッグウッド (愛知) のみだ。

■ 騎手別の歴代最多勝記録は「4」

騎手別の勝利数を見ると、4勝の的場文男騎手が単独トップ。3勝の石崎隆之騎手、戸崎圭太騎手、森泰斗騎手、森下博騎手が2位タイとなっている。

■ 調教師別の歴代最多勝記録も「4」

調教師別の勝利数を見ると、4勝の川島正行調教師が単独トップ。2勝の荒井勝弘調教師、寺田新太郎調教師、長沼正義調教師が2位タイとなっている。

■ 「2 枠」と「4 番」が勝利数トップ

枠番別勝利数を見ると、2 枠（11 勝）が単独トップ。5 枠（8 勝）が単独 2 位、4 枠（7 勝）が単独 3 位となっている。また、馬番別勝利数を見ると、4 番（9 勝）が単独トップ。10 番（4 勝）が単独 2 位、2 番、3 番、5 番、6 番、7 番、11 番、12 番、14 番（各 3 勝）が 3 位タイである。なお、未勝利の馬番は 13 番だけだ。